

# 産業経済部会 会議録

（出席者） 委員：9名  
事務局：4名（戦略部会員：3名、政策推進課：1名）  
アドバイザー：1名  
ファシリテーター：1名

（会議の内容）

## 1. はじめに

資料1に基づき、第6回まちづくり市民会議（第5回部会）の会議録について内容を確認し、公表に当たっての承認を得ました。

資料2に基づき、第7回まちづくり市民会議の検討の進め方について事務局から説明しました。

## 2. 報告事項

資料3に基づき、総合計画の改定状況について事務局から説明しました。

資料4に基づき、幸福度の設定について事務局から説明しました。

## 3. 検討事項

資料5に基づき、「市民会議からの提案（重点的に取組んでほしいもの）について」「市民協働モデル事業について」「分野別の計画素案について」事務局から説明し、検討を行いました。（検討の内容は次ページ以降に掲載。）

## 4. アドバイザー総括（阿部アドバイザー）

本日の会議についての総括を行っていただきました。（内容は次ページ以降に掲載。）

## 5. その他

今回の会議は全体会となるため、市民会議幹事のスケジュール調整により後日決定すること、全体会では市民会議幹事からの「市民会議からの提案（重点的に取組んでほしいもの）について」「市民協働モデル事業について」の2つについて発表を行うことを報告しました。

各委員に、ふり返しシートを配布し、会議後1週間を期限に、提出をお願いしました。

<報告事項について>

【委員】

ブラッシュアップとはどういうことだろうか。

【事務局】

田原市には観光資源が潜在的にあるものだと考えている。何か新たに見つけてくるのではなく、まずあるものを磨こうと考え、このような表現にした。

【アドバイザー】

行政の書類には横文字が多い。訳しにくい言葉もたくさんあると思うが、すべて市民にわかる表現にしたほうがよいのではないだろうか。

【事務局】

では、この部分は「磨きあげる」という表現に変えることにしたいと思う。

【委員】

1番に関して、農業の担い手が減少して衰退しているのであれば、休耕地ができるはずである。しかし実際には、畑は取り合いになっているという声を聞いた。大規模経営の農家が増えて、後継者のいなくなった年配の農家は、農業から去っていく。つまり農業が衰退する訳ではないのだろうか。

【事務局】

おっしゃる通りである。大きくて耕作のしやすいところ、収益が上がりやすいところは、農地の取り合いになっている。しかし、地形によって機械が入れない、水の利用が不便というところは誰も寄り付かないことになっている。大きいところは取り合いになっているが、小さいところは誰も欲しがらず、休耕地となって増えていっている。

【委員】

すぐに直結するということではないのかもしれないが、担い手を育てれば、休耕地が減っていくということはないだろうか。

【委員】

増えている、減っているというのはあまり議論にならないように思う。農業を魅力ある事業のひとつとすることや、担い手について話をしたほうがよいのではないだろうか。ブランド化の推進を前面に押し出し、担い手の育成も続けていくというかたちにした方がよいように思える。

**【事務局】**

この部分を書く時に順番をこだわった。1番は何かと考えたとき、まずは何事も人であると考えた。個人的な考えだが、それで1番目に人を入れさせてもらった。人がいないとブランド化もセールスもできない。人が集まったらブランド化に取り組む。ブランド化しても売れなくては意味がないので、次は、環境であるまちなかを3番目に入れている。

**【委員】**

4番の観光プロモーションの充実のところだが、「交通アクセスの問題など半島特有の地形的不利は避けて通れない」と記載してある。これ自体は問題ないが、それに対する対策や取組みが載っていないのはどういうことだろうか。議論のなかでも、道路整備をもっと積極的に働きかけるなどが出たと思う。半島だから仕方ないとあきらめてしまうのか、高速から直通で通れる道を誘致するのか、インターまで1時間かかるが、それを短縮するような方策を考えるのか。インターから近ければ人が入ってくるし、産業も入ってくる。今、東京電力の報道でもあるが、交通の便が悪いから資材を運ぶのに苦労しているということである。農業分野でも同様に、高速道路に近かったら、それだけ早く消費地に届けることができる。ここは言葉で書いてあるだけで全然対策が出てこない。

**【事務局】**

大型の幹線道路には国や県の事業になる。

**【委員】**

国や県に働きかけることが必要なのではないか。

**【事務局】**

産業という観点で見れば、道路網が交通網であるといえる。観光という観点では、交通網が必ずしも観光の発展に直結するものではないということは認識してもらいたいと思う。分けて考えてもらいたい、ここはあくまで観光の視点でみてもらいたいと思う。また、対策がないということでは、先程事務局が述べたように田原には農業や自然と、まだ磨きあげられていない観光資源がたくさんある。これを磨きあげることで、観光に関しては交通アクセスを発展させるという面ではなく地域の資源を磨きあげていくことで対策したいと考え、記載したのがこの部分になる。産業と観光は分けて考えてもらいたらと思う。

**【委員】**

そのようなことなら「交通アクセスの問題など～」の部分は記載する必要はないのではないだろうか。

**【アドバイザー】**

観光も交通アクセスは非常に重要である。これは、すべての分野で言えることである。

**【事務局】**

資料3「土地利用の方針」で触れさせてもらいたいが、都市基盤の整備計画のなかで「幹線道路」を一番に入れているのは、分野を超えて整備をしていくということを表している。したがって、あえて分野を限定するなど特記をしていないということもある。しかし、表現は再度見直してみようと考えている。

**【委員】**

資料3にシティセールスプロジェクトとあるが、資料2の3ページには、シティプロモーションと書いてある。これはどちらがいいのだろうか。

**【事務局】**

シティセールスが正しい表現である。資料2の部分はシティセールスに変更してもらいたい。

**【アドバイザー】**

この言葉も日本語としては、あまり聞かないのではないだろうか。

**【事務局】**

他の町、たとえば豊橋などでは、シティプロモーションで計画がある。シティセールスだと静岡市が使っている。戦略3品として「マグロ」「お茶」「ホビー」がある。ガンダムを誘致した場所があったが、それは静岡市がシティセールスとして「ホビー」を位置づけていたからあのような事ができたと思う。シティセールスに関しては、来年以降やっていこうと考えている。個人的には、田原市も戦略産品のようなものをつくり、どうやって売り出していくか考えたいと思う。田原市というまちを売り出すときに、田原市といえばキャベツとレクサスというものを3つほど出し、売り込んでいくのも方法の一つである。

**【委員】**

話は飛ぶかもしれないが、農業特区のようなものはどうか。田原も豊橋も、農業と水産が1位、2位の場所である。田原独自でやるのもいいかもしれないが、豊橋も含めて農業特区をつくることはできないのだろうか。農地の使い道も変わってくるだろうし、法律の枠から外れた政策も可能になるのではないかと思う。特区に関しては総合計画のほうに入るのではないか。

**【事務局】**

特区の書き方については、検討させてほしい。実は、豊橋からそういう打診があるが、具体的には動いていない。国からは、何かを重点的にやっていくには特区をかけなさいという話がきている。具体的に何をやるのかを見せないと、国は特区を認定してくれない。やはり目標を持って、やっていく内容を訴えないといけないと思う。

**【委員】**

農地の使い道も、随分変わってくるし、大型化もどんどんやれると思う。

## <市民協働モデル事業について>

### 【事務局】

特に質問がないが、気付いたことがあればシートに書いていただきたい。

## <分野別の計画素案について>

### 【事務局】

委員の言われた農業特区の話で、「農地の保全、活用の推進」の事業内容のところの記載内容について、担当課と詰めている。

### 【委員】

施策の目指す姿の「「獲る漁業」から「育てる漁業」への転換を進めます。」に対して、水産資源確保の推進ということになると思うが、「稚貝・稚魚の放流などを通じ」というところで、今でも稚魚の放流などはやっているか。

### 【事務局】

やっている。栽培漁業センターで育てたクロダイやヒラメを漁業である団体買って、やっている。私たちは手助けしているだけである。

### 【委員】

稚貝はどうか。

### 【事務局】

豊川河口まで獲りに行って、アサリなどを放流している。

### 【委員】

実際に獲る漁師に言われたのは、ガザミといってワタリガニや車エビも放流している。

### 【委員】

違いは何か。

### 【委員】

アサリは行って獲るけれど、車エビは携わっているけれど、あまり…ということであった。

### 【事務局】

自分たちにかえってくるかと言ったら、どうか。

### 【事務局】

補助などのことか。

**【事務局】**

違いは、2種類あり、豊川河口に漁師が獲りに行って小さいアサリを撒くというものも補助しているし、水産業のところから買って撒いているのにも補助金を出している。

**【委員】**

流通している小さいアサリを買って撒いている。

**【事務局】**

市が買ってというよりも、漁協などが買って、その一部補助を出している。

**【委員】**

これを推進している。これをまた、ますますやっていくのか。

**【事務局】**

はい。今後もそうである。他にもこういうことをやったらどうだというのが、ご意見いただけるか。

**【事務局】**

皆さんからいただいた意見で、7ページに「アンケート、ヒアリング、市民会議から出された意見・提案」の中で、「渥美産の」と書いてある。渥美という地名はもうないが、やはり渥美産でということ謳っていきべきだと考えているか。

**【事務局】**

渥美産なのか、田原産なのかということである。

**【委員】**

消費者のイメージはどちらがいいかという話ではないか。

**【事務局】**

立場が関係なければ、確かに渥美産の聞き映えがいいのかなと思う。

**【委員】**

「スーパーあつみ」が愛知大学のところにある。何年か前に仕事であの辺りにいた。4時以降に主婦が買い物に来るのは、伊良湖産の魚が4時以降に運ばれてくることを知っているからである。それが、田原産とか、渥美産とか、どれが一番集客できるのか考えたら、やっぱり伊良湖産だろうと思う。

**【委員】**

田原の「スーパーあつみ」でも、4時には伊良湖産の魚が出ている。

**【事務局】**

居酒屋でも伊良湖直送と書いてある。これは一回、みんなで話し合わないといけない。何かに統一するなど、ばらばらでは東京などでは通用しない。

**【委員】**

三河湾産のアサリは、意外と全国ブランドである。

**【事務局】**

そうすると、豊橋、豊川、蒲郡も含めて入ってしまう。

**【委員】**

伊良湖辺りが一番いい。

**【委員】**

知っている仲買は、伊良湖の魚は非常に高いからと言う。市場へ行って売り込んだり、何かしたりしないといけないのではと言うと、もうブランド化されていますと言っていた。伊良湖産と言うだけで、高値で取引されているらしい。

**【事務局】**

キャベツを作っていた方も、田原のキャベツということで市場では割り増しで売れていると、前も言っていた。

**【委員】**

私たちがイメージするのは、魚沼産コシヒカリなど、書いてあれば消費者が買うというような、消費者がわかるブランドというものを目指しているのではないだろうか。

**【委員】**

どこの名前を挙げるのかというのは、ものによってぜんぜん違う。

**【事務局】**

よく言われるのが、豊橋のキャベツと田原のキャベツを食べ比べてわかるのかということである。それよりも、愛知県産のキャベツとして、欲しい量を出せるという勝負でやっているのが現状である。一般の市民がいつでも食べられるものが出せないといけない。田原産は人気がある。だからといって田原産と書いてあれば買うかと言えば、また違う話になる。

**【委員】**

魚沼産は魅力的である。

**【委員】**

実際食べてみれば、魚沼産はおいしい。

**【事務局】**

感覚が違う。農協の人は、十分ブランド化されていると言う。市場では高値で買ってくれる。先ほどの仲買の人も、ブランド化されていると言われたのは、そういうことだと思う。でもそれが世に出回ったら、また違ってしまう。

**【委員】**

農業の耕作放棄地のデータは実績か。

**【事務局】**

これは、農業委員会が年に一度、耕作放棄地の全体調査をする。そこで出てきた数字である。

**【委員】**

減っている。

**【事務局】**

増加と書いてあるが、減ってきている。実は、ここには出ていないが、平成 22 年度はもう少し減っていたが、平成 23 年度に増えた。平成 18 年から比較すれば減っている。

**【委員】**

これは耕地の面積だが、農地としての全体に対する割合だと思う。農地全体は増えていない。

**【事務局】**

逆に減っている。割合を出せば、耕作地の方が増えてしまっている。

**【委員】**

近年、菜の花プロジェクトで活用している。農地としては増えていないが、放棄地は減っているのは、そのせいではないか。

**【事務局】**

それもある。耕作放棄地対策事業もあって国の補助金で大きく減らしているのと、農家の自助努力で減っている。市は年間 10 ヘクタールを目標としてやっている。

**【委員】**

認定農業者数は、平成 18 年と比べて随分違う数字になっている。



**【事務局】**

平成 18 年くらいに、認定農業者になると資金を借りることができたり、価格安定化事業といって暴落した時に、多少なりとも補助してもらえたりといった優遇を受けられるということで、一気に増やした。農業従事者は、7,000 人くらいいる。

**【委員】**

農業従事者の方がわかりやすいと思う。出荷額というか、面積と人員との割合はどうか。

**【事務局】**

農協と共販しているとわかるが、そうではない人もいたので、把握できないところもある。日本一と言っているのは、平成 18 年の国のセンサスで言っている。724 億円というのは、平成 18 年までしかデータが出ていない。それで説明しているときは、「平成 18 年度では」と前もって先に言っている。では現在はと言われても、推測でしか言えない。それは、どこの市町村も同じである。調査が行われていない。永遠の一番を手に入れたとも言える。農協の出荷額だけならわかる。農協のシェアは今、田原市で 7 割くらいである。

**【委員】**

税込で見てもわからないか。

**【事務局】**

推測になってしまう。

**【委員】**

このデータが、意味のわからないものになっている。

**【事務局】**

認定農業者は特にそうである。知らない人が見れば、農業をやっている人は 200 人しかいなかったが、平成 23 年になったら 1,200 人になったのかと思う。

**【委員】**

これだけ入れても「だから何なの」となる。

**【事務局】**

指標はもう一度見直させてほしい。

**【委員】**

空欄になっている目標値は入れるのか。

**【事務局】**

はい。エコファーマーもそうである。ここは、載せるべきなのか担当課も交えて検討する。

**【委員】**

データは数字を見て読んでいくが、これでは何にも読めない。

**【事務局】**

時間も限られているので、商工観光について進めさせていただく。あとでまた質問等お聞きする。

**【事務局】**

誤字がある。3-5の施策の目標指数の単位が「年」になっているので、「人」に直してほしい。

**【委員】**

宿泊のキャパシティはどれくらいあるか。

**【事務局】**

把握してないが、把握できるので、それを基によりわかりやすい指標にする。持ち帰る。

**【事務局】**

皆さんからいただいたヒアリングや市民会議の内容等も見て、こういうことではないというようなことがあれば、お願いします。

**【委員】**

3-7のマルチ商法、振り込め詐欺など、田原市の振り込め詐欺の被害件数はどれくらいあるか。

**【事務局】**

今数字がない。

**【委員】**

そんなに多くはないと思う。

**【事務局】**

振り込みそうになったとしか聞いていない。

**【委員】**

被害に遭ったという例はある。確か去年、被害額2,000万はお金持ちだと言っていた。私たちはよっぽどかき集めないと、それでもないくらいのお金である。あまり田原の人が被害にあったとは聞かない。件数的にもない。警察を通じた注意喚起の放送があるので効果があると思う。

**【委員】**

市民館等でもそういう情報が入ったら、すぐに警察に連絡して、警察から防災無線で全市に流してもらおう仕組みになっている。

**【事務局】**

啓発を促進することも事業で取り組んで継続してやっていくといいと思う。市民協働も絡んでいる。そういった取り組みが効果的であれば、引き続き推進していくと、重要内容の中に入れておいたほうがいい。

**【委員】**

アドバイザーをやっているが、地元で相談するというのに抵抗があるようである。簡単なことなら来るが、直接相談となると、東三河事務所のプラザの方へ連絡している。毎月、資料を送ってもらって相談もがんばっているが、相談室を開いていても相談件数は少ない。続けてやっていくべきだと思う。方法を変えたり、啓発に重点を置いたりしてやっていくことがいいのかかわからないが、現状はそのような感じである。

**【事務局】**

相談しやすいような環境をつくっていく必要があるということである。近いと行きづらいということである。

**【委員】**

相談室ではなく直接来て相談することもある。人の流れがあれば入りやすいと思う。今、福祉センターでやっているが、市役所関係がないので人の流れはない。

**【事務局】**

120回は、相談に来た人か。

**【委員】**

私たちが啓発した人数である。全員と個人で動いた数を合わせたものである。

**【事務局】**

アドバイザーは一生懸命やっているが、場所的な問題などから相談に来る人が少ないということか。

**【委員】**

結局、大雑把に地区を聞くので、そういう問題もあるのかもしれない。

**【アドバイザー】**

役所にはそういった相談室はあるか。

**【事務局】**

生活学校にお願いしている。

**【委員】**

生活学校がやるのではなく、個人である。

**【アドバイザー】**

悪徳商法やマルチ商法に引っかかった場合に相談に行く場所はどこか。

**【事務局】**

基本的に県の消費者センターになる。市はない。

**【事務局】**

もしくは、月に何回か設けている無料の弁護士相談会を紹介している。聞き取り程度はするが、適当なことは言えない。

**【委員】**

電話相談の場合、ナンバーディスプレイか。

**【事務局】**

それではない。

**【委員】**

その辺りを考えてしまう人もいるかもしれない。

**【事務局】**

電話する人も、窓口に来る人も、切羽詰まっているのでそれどころではない。

**【委員】**

3-4の年間商品販売額について、市内で流通している商品はこれだけか。

**【事務局】**

確認する。

**【委員】**

観光の振興についてもうひとつの会議に出ている。そこでの田原市の観光資源の発掘という議論の中で、いろいろ資源はあるが、国道からその場に行くアクセスに問題があるという意見が出

ている。とても狭い道を通らないといけないとか、行っても駐車場があまりないという意見が出ていた。たとえば、三河湾のスナメリウォッチングは非常に希少な財産だと思う。しかし、なかなかPRもできていないし、渡り鳥で有名な汐川干潟は、近年白鳥も飛んで来るが、国道からどう入っていったらいいのかわからない。今眠っている状態の資源がいっぱいあって、もったいないので、観光資源の発掘もやってほしいと思う。

#### 【事務局】

観光案内やホスピタリティの問題である。紹介はしていても、どうやって行けばいいのかわからないというのは問題である。本気でやろうとしているのかという姿勢の問題にもなってしまふ。

#### 【事務局】

今の干潟の問題について、干潟は堤防に沿っている。堤防は管理用の道路である。おっしゃることはよくわかるが、勝手に整備ができない。整備されていないと、2度と来なくなってしまう。

#### 【委員】

堤防に隣接する土地で、遊んでいる土地はいっぱいある。堤防には駐車場はつくれない。つくれるのは、遊水地みたいなところである。昔、水田をつくっていたところに必要だったが、今はほとんど畑になっている。ほとんどいらぬ土地である。私の管理地にあるので、買ってほしい。

#### 【事務局】

その他、気付いた点等あれば、ふり返りシート等を書いていただきたいと思う。よろしく願いしたい。

### <アドバイザー総括>

#### 【アドバイザー】

3点お願いする。まず、総合計画に関連して、現状課題についての記述内容を精査する必要があると思う。重要な指標を挙げているが、項目についても、精査し検討する必要があるかと思う。今日の会議の中では、次までの課題かと思う。

あと2点だが、幸福度の考え方、素案が出された。こういうことをきちんと整理するという事は悪いことではない。大きな項目ごとに通知表のようにになっているが、市民に評価してもらって、今の田原市の幸福度として、何年かに一度出すことができれば、みんなが不満に思っていることが少しわかってくると思う。みんなが満足しているところもわかる。アンケートをとり、行政に活かすということをやればおもしろいと思う。

最後に、農商工の仲間づくりプロジェクトについてだが、取り組み内容と役割分担がある。個人、地域、団体、企業、行政と書いてある。地域、団体のところが、実際の活動の具体的な姿をかたちづくっていくと思う。イベント同士や組織同士の相互理解、援助や協力は非常に重要で、そのための行政の役割は重要だと思う。個人や企業が自らの力を発揮して、地域に活かしていく際の行政の仕事内容を、具体化していく必要があると思う。ここには仕組みづくりとしか書いて

ないが、ここには書かなくてもいいと思う、何をやっていくのか考えてもらえたらいいという気がする。

**【事務局】**

幸福度の評価の件について、3年に一度、市民意識調査をやっている。今までそこで満足度をやっている。今回、幸福度が位置付けられれば、市民の幸福度のレベルについて追跡調査をきちんとし、足りないところを施策に反映させていくということでもいいと思う。きっちりやっていきたいと思う。

今回は全体会として、部会の検討結果を発表する場として、6部会集まって開催する。開催時期は、9月後半から10月の前半くらいになるかと思う。日程については、改めて連絡する。今日一日、ありがとうございました。

以上